

国際シンポジウム

前衛としての台湾文学：1990年代文化論再考

陳芳明・紀大偉・四方田犬彦

いま日本には台湾文学や台湾映画に触れるさまざまな機会があります。以前には考えられもしなかったような多様性をもって、台湾の文化は私たちの前にたちあらわれます。しかし何よりもそれを可能にしたのは、1987年の戒厳令解除に至る台湾の人々の広範な民主化運動のたかまりと1990年代の文化運動のひろがりです。そこでは前衛性と大衆性とが重なり合うような深さを持つさまざまな文化表象が創造されてきました。陳芳明さん、紀大偉さん、そして四方田犬彦さんをゲストに、そうした1990年代以降の台湾文化を考えます。

日 時：2016年10月22日（土）10:30～17:10

場 所：キャンパスイノベーションセンター（CIC）東京408号室（広島大学東京オフィス）
JR田町駅芝浦口すぐ・東京工業大学田町キャンパス内（www.cictokyo.jp/access.html）

主な言語：日本語（中国語会場通訳あり）・参加費無料

企画責任・連絡先：三木直大/広島大学大学院総合科学研究科（naomiki@hiroshima-u.ac.jp）

第Ⅰ部 1990年代台湾文化再考：雑誌『島嶼邊緣』から（10:30～12:00）

司 会：三木直大

発言者：紀大偉（台湾・政治大学）・垂水千恵（横浜国大）・山口守（日本大学）ほか

内 容：紀大偉さんをゲストに、雑誌『島嶼邊緣』の台湾文化史における位置について考えます。

第Ⅱ部 文学史、映画史を書く：陳芳明×四方田犬彦（13:00～14:40）

司 会：山口守

発言者：陳芳明（台湾・政治大学）・四方田犬彦（比較文学者、映画史家）

内 容：『台湾新文学史』（聯経出版/東方書店）の著者である陳芳明さんと、『映画史への招待』（岩波書店）や『日本映画史110年』（集英社新書）など数々の映画史・映画論を発表されるとともに『台湾の歎び』（岩波書店）の著者でもある四方田犬彦さんとの、文学史を書くとは何か、映画史を書くとは何かをめぐっての対談です。

第Ⅲ部 もはや周縁ではない？：紀大偉に聞く台湾 LGBT 文学（15:00～16:30）

司 会：垂水千恵

発言者：三須祐介（立命館大学）ほか

内 容：台湾で唯一の同性愛文学史である『正面與背影：台湾同志文学簡史』（国立台湾文学館）の著者・紀大偉さんをメインゲストに、「同志文学史」とは何かを考えます。

第Ⅳ部 総合討論（16:30～17:10）

司 会：垂水千恵

発言者：陳芳明ほか

内 容：陳芳明さんを中心に台湾文学の前衛性について考えます。

通 訳：張文菁（早稲田大学）・劉靈均（神戸大学大学院生）・迫田博子（御茶の水女子大学大学院生）

会 場：明田川聡士（横浜国立大学非常勤講師）・八木はるな（東京大学大学院生）

主 催：

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）25370399「戒厳令解除と1990年代台湾文化の再編制—『島嶼邊緣』とその時代」研究代表者：三木直大

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）26370424「台湾文学における日本表象の相互性について—日本・韓国・中国文学を視野に入れて—」研究代表者：四方田千恵（垂水千恵）